

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800695		
法人名	株式会社コンフォート		
事業所名	コンフォートフィオーレ曾谷(3F)		
所在地	千葉県市川市曾谷5-2-12		
自己評価作成日	令和5年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座6-13-9 GIRAC GINZA8階bizcube		
訪問調査日	令和5年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お客様の出来る事を奪わぬよう家庭的な環境で家事全般をお客様と協力しながら行っています。イベント・装飾・レクリエーションにて五感を刺激し認知予防・改善に務めております。お客様の夢や希望など個々のニーズを捉え、生きがいを持って頂けるよう支援します。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍で全体での外出行事や地域行事への参加などは難しい一年となりましたが、ホーム内で楽しめるレク活動や季節行事を工夫して実施し、ホーム内でも楽しく快適に過ごすことができるように職員が一丸となり取り組んでいます。また地域との関係性の構築に向けて、地域のパトロールの活動に職員が参加をしたり、地域包括支援センターから地域の行事を教えて頂くなど関係機関とも良好な関係を築き運営を進めています。年間を通してコロナ禍のため、利用者が地域の方との直接的な関わりや、外出行事などを実施することはできませんでしたが、今後に向けては感染状況を見て少しずつ再開させていくことも検討しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	①朝礼時に理念の唱和。 ②事務所と各階のキッチンに、ホーム理念の掲示。	会社のサービス理念を事務所や職員の休憩室に掲示しており常時確認できるようにしています。新人職員にはホームの拠点マニュアルを用いて大切な考えなどを説明しています。ホーム全体で「笑顔の多いホーム」を目指し、全職員間で共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	①町内会に参加。 ②地域パトロール隊に参加 その他コロナの影響で出来ていません。	コロナ禍のため、地域の行事への参加や地域の方とのかわりについては控えています。職員が地域のパトロールに参加をしたり、また地域包括支援センターから地域行事の情報を収集することができ、今後どのように参加していくかなどを検討しています。	コロナ禍が収束に向かう中で地域行事も増えてくることも考えられます。コロナ禍の状況を見て、地域行事への参加などを通して、少しずつ地域との交流が再開できることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	①地域パトロール隊に参加 その他コロナの影響で出来ていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	①コロナの影響を鑑みて書面開催にて報告。	運営推進会議に関しては今年度においてもコロナ禍のため書面開催の形式で実施しています。利用者の現状やホームの取り組みなどを議事録に残して利用者の家族や町内会、地域包括支援センターへ送付して意見や要望なども併せて確認しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	①地域包括支援センター主催の勉強会への参加。意見交換を行っている。	市の担当課からは定期的にメールが届き、運営に関する情報等について収集しています。運営上疑問が生じた際には電話で直接確認するほかコロナ禍での対応等についても直接助言を頂くことができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	①年に3回の勉強会を開催。 ②身体拘束廃止委員会を発足し、メンバーは研修に参加。毎月の会議にて職員へ事故報告・ヒアリングを共有し注意喚起をしている。	身体拘束をしないケアの実践に向けて、年に3回ホーム内での勉強会を予定して実施しています。また身体拘束廃止委員会を毎月実施して各ユニットでの現状を確認しています。現状身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	①委員会を発足し勉強会を行っている。 ②入社時に高齢者虐待についてのマニュアルの読み合わせを行っている。 ③入浴時には全身確認を行い痣や怪我がないかの確認を行っている。		

コンフォートフィオーレ曾谷(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	①入居者様の中に青年後見人を使用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入居前に実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議ごとにアンケート用紙やメールでご意見をご要望を聞いている。	家族からの意見や要望については電話やメールのほか運営推進会議前にアンケートを送付し運営等についての意見や要望を収集しています。利用者本人からの要望については日常会話から収集しています。意見や要望等が出された際には速やかに対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を開催して、話し合い意見を聞いている。又、4か月～半年に1回スタッフ面談を実施し、そこで出た意見等については、全体会議等反映している。	職員からの意見や要望については、事業所会議や利用者カンファレンス時に確認するほか、管理者が個別に声を掛けて意見や要望等を確認しています。職員からの意見や要望が出された際には迅速に対応して日々の支援や業務に生かせるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ面談内にて評価し、それを点数化して本にへ伝えている。 また、年に2回介護知識テストを実施し、結果を伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加。(本社主催web)シフトに合わせ少しずつ参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	①管理者は月1回他事業所との会議に参加している。 ②各委員会は本社主催の委員会会議に参加している。		

コンフォートフィオーレ曾谷(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、施設を内覧をして頂き知って頂く。また、ご自宅にお邪魔して、認知症の部分を中心に生活全般の不安等ないよう話を聞き、ケアプランに取り込んで同意を得ながら進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、施設を内覧をして頂き知って頂く。また、ご自宅にお邪魔して、認知症の部分を中心に生活全般の不安等ないよう話を聞き、解決案を提案しながらケアプランに取り込んで同意を得ながら進めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	提携している介護老人保健施設とも相談し合える関係構築している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にお客様に対する言葉遣いや挨拶のマナー教育を行い、お客様と良好な関係構築を目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば、電話連絡をしている。また、来所時や電話等で日々の様子を説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナの影響で行えていないが、webを利用しての面会のご案内をしている。	馴染みの人や場所との関係継続に向けて、コロナ禍により馴染みの場所への外出は難しいですが、オンライン面会ができる環境を築いて友人との面会、手紙でのやり取りや電話の取り次ぎなどを通して関係性が継続できるように努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべくリビングが過ごしやすい環境となるよう気の合う方と座席が近くなるよう配慮している。 手伝える事は手伝って頂き、助け合えるようにしている。		

コンフォートフィオーレ曾谷(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者が、電話やメールにて相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を中心にご本人様の希望や要望を聞きユニット会議・ケアカンファレンスにて共有している。	利用者からの意見や要望等については日常会話から直接職員が聞き取り、日々の支援に活かしています。また、ケアプランの作成および更新時には「リ・アセスメント支援シート」を用いて利用者の現状や課題等を抽出しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話にて情報収集を行っている。ご家族様へもお聞きしている。状況に変化があれば、モニタリング・アセスメントを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課計画表(ケアプラン第4表)を作成し共有している。カンファレンス時に共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議内で全入居者様について話し合っている。その中で変化があればケアプランを変更・更新している。	アセスメントで抽出した現状や課題に基づき、担当者会議を開き職員、ケースによっては看護師や医師などの多職種の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプランは短期目標期間である6ヶ月毎更新しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送りノート・業務日誌で共有し、さらにユニット会議で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同施設にある小規模多機能型住宅介護や介護老人保健施設と連携しお客様や家族のニーズに柔軟に対応できるよう努めている。		

コンフォートフィオーレ曾谷(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で行えていないが、今後職員に地域資源OJTで教え、お客様の要望に合わせてご案内ができるようにと考えている。また、今後町内会のイベント参加で地域との交流も考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と提携している往診医を強制せず、かかりつけ医がいる場合は、ご本人の要望に合わせて継続出来ている。	2ヶ所の医療機関と連携して、定期的な訪問診療を通して各主治医と連携しています。訪問看護も毎週訪れ利用者の健康状態を管理しています。これまでのかかりつけ医を継続することも可能としており、必要な医療を受けられる体制を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居室担当・気づいた職員が医療ファイルに記載し、その内容を看護師へ報告・相談し、情報共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が営業等で共有している。介護老人保健施設と連携している。入院した際は、こまめに連絡を取り情報交換・相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実施している。看取りの可能性がある場合は、往診医・NS・ご家族様を含め話し合いの場に参加している。	ホームでは主治医や訪問看護、家族の協力を得ながら終末期まで対応していく体制を築いています。重度化した場合や終末期に向けた方針に関しては、利用契約時に重度化した場合における(看取り)指針において、ホームの考え方や重度化した際の対応等についてを説明し、家族の同意を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	OJT時に緊急時マニュアルを説明している。事故が起こりそうな場面やニュースがあれば全体会議で共有し注意喚起を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施。非常食3日分の確保。会議での周知・共有を行っている。	災害に備えて令和4年度は10月に日中の火災を想定した訓練を行い、3月に夜間想定訓練を予定しています。災害時マニュアルのほか感染症発生時の事業継続計画を整備しています。各種のマニュアルは会議の中で確認して統一した対応が図れるように努めています。	今後に向けては大地震発生時における事業継続計画の整備を期待します。また、水害を想定した訓練なども実践できるとよいと思います。

コンフォートフィオーレ曾谷(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員にお客様に対する言葉遣いや挨拶のマナー教育を行っている。 職員同士で注意喚起を行っている。	全職員が利用者に対して丁寧に対応すること、プライバシーや羞恥心に配慮して対応することを大切にして不適切なかわりがないように取り組んでいます。入社の際には拠点マニュアルを使用して利用者への対応方法等を確認しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人様へ問いかけ自己決定している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日中居室にて休みたい方は休まれたり、入浴の時間の希望を聞きその時間に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい洋服を着てもらっている。見つけられない場合は、選択ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コープを利用しカタログでお客様が食べたいものを選んでいただき提供している。 食事の際は盛り付け・配膳・片付けを職員と一緒にやっている。	感染予防の観点で現在食材は湯煎タイプのものを使用して、食材に直接触れる機会を減らしています。食事の楽しみに向けては、季節毎で行事食を提供したり、季節の旬の食材を取り入れた食事会、誕生日会でのケーキなども楽しみになっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べ物の嗜好は入居前や入居後にご本人様やご家族様にお聞きし提供している。 1日の水分量も主治医に相談しながら決めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している。 気になる点は訪問歯科にて相談・指導をして頂いている。		

コンフォートフィオーレ曾谷(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している。 排泄の間隔を記録し、状況に応じて声掛けをしている。	定時の声掛けや誘導によりトイレで排泄できるように支援しています。利用者個々の排泄状況は記録に残し、排泄間隔等を職員間で共有しています。夜間帯も転倒に気を付けながら、極力トイレでの排泄を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的にヨーグルトや寒天ゼリー等を提供している。 希望される場合は、廊下の往復をし運動を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	実施している。	利用者の体調などを考慮したうえで週2回入浴できるように支援しています。入浴中は職員が介助につき安全に入浴できるように努めています。夜間帯に入浴したいとの要望にも個別に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	湿度・室温管理。 日中の活動量の確保。 光療法を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。往診時に薬の変更があった際は、効果・副作用を聞き共有している。状況に応じて主治医へ連絡を行い調整している。薬情はいつでも観覧可能になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントへの参加。 お客様の出身地の料理、お誕生日には食べたいものをお聞きし提供。現在はコロナの影響で行えていないが、今後は外食などこれまでの生活習慣を伺いながら実施していきたいと考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響にて行えていないが、散歩・買い物、ご家族様との外出。外出レクリエーション等で好きな場所へご案内していきたいと考えている。	コロナ禍の影響もあり、全体での外出や地域行事への参加などは難しい状況ですが、今後は感染状況を見て、気候の良い日には少人数で散歩に出かけたり、外出行事なども少しずつ再開させたいと考えています。	コロナ禍の状況を見て、家族との外出についても少しずつ再開して、利用者が戸外に出かけられる機会が少しずつ増えていけるように取り組まれることを期待します。

コンフォートフィオーレ曾谷(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設管理。 (立替金制度だが買い物は自由)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙(はがき)のやりとり。 施設の電話を使用しお話をされることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾、イベント時の写真を掲載。 手作りの杖置き、足置き設置。	季節に合わせた装飾品を掲示するなど季節感が感じられるように各ユニットで工夫しています。 日々の掃除の徹底や感染対策として手すりや床、リビングのテーブルなどもこまめに消毒しています。感染対策として換気も定期的を実施しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望の座席配置を行っている。 好きな時に好きな席に座って頂いている。 居室では独りの空間。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している。	居室内には利用者の愛用品の持ち込みを可能とし、家具等のレイアウトについても利用者本人や家族の意向を大切にしています。日々の掃除により衛生面は保たれており、居室の入り口にも消毒液を設置しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー。 居室には表札や飾り等をつけお客様が迷わないように配慮している。		